



## 東地中海地域ニュース

### イスラエル：中東和平への対応

(4月19日付現地紙)

4月18日、カイロで開催されたアラブ連盟外相会議は、エジプトとヨルダンがイスラエルとの和平を目指すアラブ・イニシアティブの推進の為の先鋒を務める。

イスラエルとの交渉は入植地建設の停止を条件に行う。  
と決定したのに対するイスラエル側の反応。

1. オルメルト首相のクネセット外交防衛委員会での発言：

- (1) パレスチナとの外交プロセスはロードマップ及び直接交渉に基づくべきである。アラブ和平提案は、そのプロセスの外殻を提供し得る。
- (2) 米国は、カルテット及びアラブ・カルテット（サウジアラビア、エジプト、ヨルダン、UAE）、イスラエル及び PA の参加する国際会議の開催を試み、失敗に終わったが、それは我々が原因ではない。
- (3) アラブ連盟は、代表団をイスラエルに送ることを考えている。これに対して、首相府は、「我々は、喜んで如何なる代表団も受け入れ、彼らと話をする。我々は、他者に条件を提示しないし、彼らが我々に条件を提示するとも思っていない」と発表した。

2. リブニ外相とゲイツ米国防長官の会談後に発出された外務省プレスリリース（19日）：

- (1) パレスチナ問題は、二国間トラックによって前進可能であるし、そうあるべきである。アラブ連盟は、パレスチナ人の為になる柔軟性を示し、又、前向きなイスラエルの措置を援護することによって、それを支援することが出来る。
- (2) 我々と外交関係のないアラブ諸国も、その過程のまさに第一歩から我々のパートナーとなり得たかも知れないが、その代わりに彼らは条件を突きつけた。勿論、イスラエルは、如何なる対話にも応じる用意がある。
- (3) イスラエルにとって重要な安全保障の問題があり、将来のパレスチナ国家がテロリストの巣窟とならないということを確認しなければならない。